



No. 16

発行所
社団法人 山形県手をつなぐ親の会事務局
山形市旅籠町
丁目10番30号
山形県社会福祉会館内
TEL 山形 (3) 6572
印刷所
K.K. 誠天堂印刷所

山形精神薄弱者収容授産施設

早期設置促進大会の報告

期日 昭和四十三年九月五日
場所 山形県歯科医師会館

本会創立十周年を迎え、それを記念して授産施設設置促進大会が盛大に行なわれました。

午前中のいも洗い会は十人を一グループにわかれ十組で、いろいろな問題について全員話し合われた。

そして各組から提出された主要な望、話題を二・三ひろってみますと

第一に栄光園の早期建設の実現を計ると共に県下にある精薄者収容施設の増設

第二に心身障害児扶養保険制度の実施

第三に栄光園への募金活動をいかにすべきかの点について話題になりました。

午後からの大会には県知事、県議会議長、県市長会々長の心ろあたまる激励の御祝辞をいただき私たちが



栄光園建設予定地

親の会は決意をあらたにした次第です。

議長には副会長の青木さんが推薦され、意見発表者に中村、伊藤、月

岡、山村の各理事が発表した。

次に意見発表者の議題を順をおおって申し上げますと、中村さんの『山形県手をつなぐ親の会発足十周年を迎えて』は感無量のものがありました。一口に十年といいますが、短いにも思われますが、心身共に弱いこの子らのために苦楽を共にした長い航海でありました。本会にかせられている組織の強化やコロナー問題などは重大な課題として今後に対処して行かなければならない点であります。

伊藤さんの『精薄児・者収容施設の一貫性』は大変意義ふかいものであります。いわゆる児童施設から成人施設に自動的に移れる庇護施設なるものが必要であることを発表されました。

月岡さんの『栄光園』の計画と現状については随時、親の会たよりにのべていますが、主要点をひろってみますと、この子らを一定の地域内に収容して、その人達のもっている能力を最大限に發揮させる機会と場所なるものをつくるコロナーに發展させるのが計画であり、できるだけ父兄の負担を解消しようとするねらいであります。

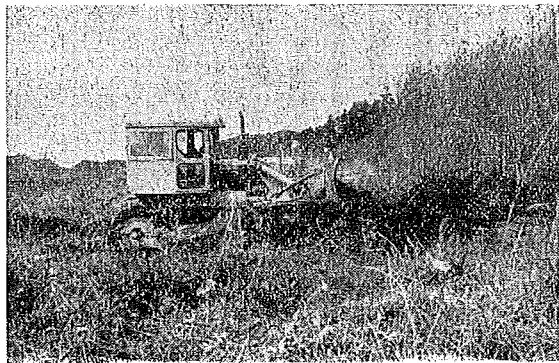
最後に山村さんの『栄光園建設の募金運動』は適切な運動方針と親の喚起をうながした。

るのも親たちであり、その努力と責任は今後の栄光園建設に大きく左右されるであろう。
次に質疑応答につづいて決議文起草委員選任、決議文朗読の順で大会は閉会された。

建設する整地を開始

米沢市万世町^{すま}梓山に建設する栄光園が各種団体の協力で、社会復帰を目的とする授産施設が着々準備が進められていたが、この間技術指導の一環として計画されていたホップ畑の整地作業が開始された。

四十五年の春開所を見込んだ収容棟が完成すると直ちに作業に取りかかる事業だけに関係者は張り切っ



ホップ畑の整地作業

ている。整地造成には地元米沢市民の絶大なるご奉仕によったもので、特に青少年グループの愛の奉仕は身にしみるものがあった。あの雑木林でおおわれた原野を伐採したのをブルドーザーが伐根し、整地用のバツクボンなどの大型機械を導入してホツプ苗の仮植を行なって下さる奉仕

知恵おくれの子どもの

ための親のつどい

去る十月二十六日(土)三浦記念ホールにてNHK厚生文化事業団の主催による「相談と講演の会」が盛会にひらかれました。親の会も後援になり協力申し上げました。

午前中は五つの班に分かれて、子供のあらゆる問題について、総合的にご相談されましたが各部会とも成人になってからの指導と訓練の場が必要であることを話しあわれました。また治療と臨床診断には二瓶小児科医院長の二瓶淳二先生と山形大学教育学部助教授の小林重雄先生があたりれ適切な指導を仰ぐことができて嬉しく存じました。

また第二分科会の司会者には中村会長があたりれ活発な意見応答がありました。特にこの度建設される「栄光園」については親たちからは大きな期待がよせられた。

には頭が下がりました。このようなホツプ栽培は技術の要する仕事なので地元ホツプ組合とも密接な協力体制を確立しており、将来の見通しも明るくなっている。苗木も同ホツプ組合で都合して下さるなど、地元の協力で力強く第一歩を踏み出しているところです。

午後の部には講演と個別相談があり両方とも大勢の参加をみる事が出来て主催者側は嬉しい悲鳴をあげた。講演の池田太郎先生(滋賀県立信楽学園々長)は「生きがいの教育について」と題して一時間三十分におよぶ大切な講演をして下さり親、教育者、教師に対してよき参考になりました。

親子講習会の報告

今年度の親子講習会は新庄市と南陽市でおこなわれましたが、両会場とも実のある成果を結ぶことができて大変うれしく思いました。

ここ数年在宅児童とその保護者を対象に正しい生活訓練と指導を身につけて児童の育成をはかろうとするもので参加者一同に対して強い勇

気と希望をあたえている。四日間の日程を新庄と南陽地区にわけて各会場とも二日間づつひらいたのですが、ベテランの指導員、児童判定員方を通して適切な指導は実に感心させられたものばかりでありました。

家庭の片遇に放置されていたため人みしりのする子供、呼びかけても答えようもしない子供達は別れる時にはすっかり慣れて「先生サヨウナライ」と云って親子ともども手を振って別れた時には大変よい講習会であったと嬉しく存じました。

ある父兄からはもっとこのような会合をたびたび持つて下さるようにとの要望がありましたので県の児童課とも相談しましてできるだけ皆さんのご要望にそいたいと思います。講師には元中央児童相談所長の永井喜三治先生(現城北女子短期大学教

授)が「子供の指導やしつけ」についてお話し下さり非常に有意義なものでありました。

講演の後先生をかこんで熱心な質疑応答がかわされ時間の経つのも忘れて話合われたのはうれしく思いました。

新庄の会場には中村会長さんみずから出席されて県手をつなぐ親の会の存在価値をご自分のお子様の救われた尊い過去の体験を通して説明されました。これによって力強い親の勇氣と決意が必要であることを教訓されました。

両会場の準備万端をして下さった地元親の会並び福祉事務所の皆様に厚く御礼申し上げます。

来年は親の会の作られていない地区で実施し、いろいろな問題に対処して行きたいと願っています。

栄光園建設には

大幅助成を要請

栄光園建設計画には約四千六百万円の資金が必要されるが、現在の資金構想見込みとして県補助一千万円、厚生省競輪配分金千三百万円、親の会二千三百万円となっています。

親の会の二千三百万円募金はな

みなみならぬ苦難が予想されておりますので、会長並関係者は県市町村会を通して東奔西走陳情をかさねている実情であります。

国、県にたいしては増額猛運動中でありますが、会員の方々も積極的に地域住民、関係機関団体、有識者の参加を求めて機会あることに協力を要請下さるよう願っています。

第八回……

東北ブロック大会

第八回東北手をつなぐ親の会大会が七月二十七日・二十八日の両日秋田県立児童会館で開催されました。集まる者約五百名で本県からは十八名の参加者を見ることができて嬉しく思いました。

第一日は芋洗会（オリエンテーション）と懇親会（参加者全員）があり、なごやかな雰囲気のもとに開かれた。

芋洗会は十五人を一グループとして円陣を作り十五組であらゆる問題について話し合いました。特に各組が問題にしたのは十八才で児童施設をだされた人の作業訓練と授産事業を兼ねた収容授産施設を設置促進することが急務であることを発表された。

第二日は大会と記念講演会がありました。大会の感謝状贈呈には本県から酒田市立第一中学校教諭中西ゆき子先生、山形県立最上学園保母高山敏子先生の両氏が受賞されました。発表者には本会理事の山村栄氏が『授産施設関係』について発表され参加者一同にたいして深い感銘を与えた。山村理事の発表要綱を申し上げますと本県の『栄光園』を参考資料にして授産施設の必要性を強調さ

れた。

それにはどの法律にそった施設をつくるのが大切か、定めたどの法の基準にそった運営が大切かを体験を通して話された。しかし民間施設であろうが国立、県立の施設であろうが親たちの決断と熱意によらなければならぬ点を申された。

記念講演会には渥美児童家庭局長の『精薄者対策の現状と展望』について講演された。その内容をみると現在取り残されている問題として重度対策、成人対策、コロニー建設、在宅者対策、発生予防と早期対策並びに原因研究についての充実された講演でありました。

重度対策については各都道府県毎の国立重度施設を進めているが、近く国立コロニー（群馬県に）を完成すれば多少現在よりは解決されるのではないか。

在宅者対策としては特別児童扶養手当や障害年金の外に精薄者相談員制度の拡充などをして在宅対策にあたって行く。

発生予防と早期対策についていろいろな角度から専門医学者が研究を進めており、それと平行して地域社会の相談員を通して母子保健の大運動に発展させる計画でいることとありました。

最後に大会宣言で有意義なブロック大会を無事終了致しました。

滋賀県立近江学園長

糸賀一雄先生逝く

この子らを世の光に」と二十一年間精薄児者のために社会に訴えてきました先生は来る九月十八日心筋こうそくと脳血せんを併発して亡くなりました。

先生は大正三年三月鳥取県に生れ、旧制松江高等学校をへて、昭和十三年三月京都帝国大学哲学部を卒業後約一年間京都市の小学校で代用教員を経験。昭和十四年十二月滋賀県庁に奉職、社会教育主事補、青年教育官秘書課、食糧課長等を歴任した。

昭和十八年十一月教員時代の友

人池田太郎、田村一二両先生と特殊学級を訪ねたのを契機に、精薄児に深い感心をもった。以来、悪戦、苦闘と戦いながら現在の近江学園を創設並びに重症児施設に尽力、心身障害児の福祉のために先駆者の茨の道を歩んできた。

直接県手をつなぐ親の会は先生よりご指導を仰ぐ機会はなかったが、間接的にこの子たちの尊い存在、生きる権利、幸福への道を教えて下さった生前の功績は大きかった。

先生が私たちにお与え下さった勇氣、希望のともしびは消えることはないでしょう。冥福を祈ります。

愛のひとしづく運動

推進のお願い

愛のひとしづく運動は毎年私どもが実施している事業計画の一つであります。

例年一月に運動開始しておりますが昨年からは精神薄弱者愛護月間の九月から実施しております。す

に県内の小中高の皆様からご協力を得て恵まれないちえ遅れの子どもの幸せのため活動しております。

会員はもとより教育者、学童全員のご協力を仰ぎたくお願い申し上げます。

第四回理事会

期日 十月五日
 場所 県社協第一会議室
 議題 山形精薄者収容授産施設栄光園の募金運動について
 出席者 十四名、委任二名、欠席二名

栄光園建設の総工費約四千六百万円が必要とされ、そのうち二千三百万円は国、県が補助してくれるようになっておりますが、残り二千三百

各地区割当額ならびに地区割

金額	支部	地区
五〇〇万円	山形	山形市
五〇〇万円	米沢	米沢市、高島町
二〇〇万円	鶴岡	鶴岡市、朝日村、権引町、余目町、温海町、羽黒町、立川町、藤島町、三川村
二〇〇万円	酒田	酒田市、松山町、平田町、八幡町、遊佐町
一五〇万円	新庄	新庄市、舟形町、大蔵村、鮭川村、真室川町、金山町、最上町、戸沢村
一五〇万円	西村山	寒河江市、大江町、朝日町、西川町、河北町
一〇〇万円	天童	天童市、中山町、山辺町
一〇〇万円	上山	上山市
一〇〇万円	村山	村山市、東根市
一〇〇万円	尾花沢	尾花沢市、大石田町
一〇〇万円	南陽	南陽市、川西町
一〇〇万円	長井	長井市、白鷹町、飯豊町、小国町

万円は当面の大きな問題になっております。

そのため本会では各地区割当額をつくと同時に県下各市町村に来年度予算案編成前に協力方を依頼することにした。

尚、地区割当額は次のようになっておりますが、親の会の会員数や人口密度などに関係なく主に活発に運動をつづけておられる地区親の会を対象にしたものであります。

ちえおくれの子どものために 特典を御利用下さい

ちえおくれのお子さまをお持ちの保護は次の手続きをすれば税金が八万円以上安くなります。是非御利用下さい。(知能指数75以下の場合に適用)

給与所得者は年末調整申告の時事業所得者は確定申告の時『証明書』(心身障害者である)と云う証明書をつけて申告書の「障害者控除の欄」で七千七百五十円差引いて申告できる特典があります。所得税が安くなれば市民税、県民税、事業税、その他も全部安くなります。

この証明書はもよりの児童相談所か病院で知能検査をうけて証明書を つくっていただければよいわけです。重度障害者(知能指数30以下)の場合は十萬七千五百円控除して申告して下さい。

来年四月からは中度八万円、重度十二万円に改正されます。お子さまが施設に入ってもあなたが扶養者ならば適用されます。またお子さまが就職していてもお子さまの一年の収入が十九万五千円以下なら適用されますから毎年この特典を御利用下さい。米沢市手をつなぐ親の会では米沢児童相談所の特別の御協力を得て本年も無料で証明書をつくっていただきこの特典を利用しています。皆様も是非御利用下さい。

年の瀬によせて



今年も残り少なくなりました。会員の皆様にはあれやこれやとあわただしい毎日を過しておられることと存じます。

事務局でも皆様方のご指導によって親の会の発展と幸福のためにささやかなる努力を挙げてまいりました。だがその結果は喜ぶべきものもあり、悲しむべきものもあつたがすべて年の瀬によって忘れさるうとしております。あれもしなければならぬいこれもしなければならぬと云って事業計画に織り込んだものの財政難に追われ活動されないでいたことが残念に思います。もっと福祉国家と云われるべき国の政策が私ども心身障害者のために面倒を見て下さるならば、親の会たるものも必要になつて行くことであろうし、会員からすいあげる会費なども必要になつて行くことであろう。このような時代が早く迎えられるよう新しい年に期待をよせています。よき新年を迎えられますようお祈り申し上げます。

(事務局より)